

今週のメニュー

[トピックス](#)

横笛ギネス挑戦に向け弘前の管工事組合が塩ビ管を寄贈

[随想](#)

ルワンダ旅行記(6) - 画一化 - (終)

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

[編集後記](#)

トピックス

横笛ギネス挑戦に向け弘前の管工事組合が塩ビ管を寄贈

弘前といえば、訪れてなくとも桜の名所弘前城を皆さん思い浮かべることでしょうが、塩ビと結びつく方は少ないと思います。今年は弘前城と塩ビ管の架け橋が出来ようとしていますので、ご紹介させていただきます。

平成23年は弘前城築城400年祭が催され、それに合わせ「[津軽横笛ギネス実行委員会](#)」が『横笛一斉演奏で4千人の世界記録』を目指しています。市販の横笛は、一本2千円ほどするので、4千本準備すると単純計算で800万円も掛かってしまいます。

いろいろなところで、塩ビ管に限らず塩ビ製品は、スピーカー等音響の機器・楽器としても、いい響きをすることが浸透してきている現われと思いますが、この話を聞いた弘前管工事業協同組合で、昨年10月に塩ビ管の寄贈の話が持ち上がり、加盟の組合員の協力でスムーズに集まったとのこと。

昨年末に弘前管工事業協同組合の青年部の方が、「津軽横笛ギネス実行委員会」に水道管用直径13mm、長さ400mmの塩ビ管1,200本を手渡し、実行委員の方が早速その場で1本に穴を開けて横笛を完成させ、ねぶた囃子を奏でたところ、その音色に皆さん満足されたとのこと。

実行委員会では、塩ビ管を順次笛に加工し、2月中旬頃近隣の学校に贈り、生徒が『横笛一斉演奏で4千人の世界記録』に向け練習して行く予定とのこと。

ギネス挑戦まで引き続き塩ビ管の横笛制作を行う予定で、広く当事業を知って頂き、弘前市・青森県に限



弘前城天守



弘前ねぶた



ねぶた囃子を演奏する子供達

らず、ご共感とご支援頂けるところがございましたら「津軽横笛ギネス実行委員会」までご連絡下さいとのこと。

なお、世界記録挑戦は弘前ねぶた祭り（8月1日-7日）が始まる前日の7月31日に予定されており、テレビ・新聞でも報道されると思いますので是非ご注目下さい。現地でライブにてご覧になりたい方は、是非駆けつけて下さい。

また、塩ビ管を使用した楽器は当メルマガで既にご紹介しましたが、[尺八](#)、[「ブルーマン」のトロンボーン](#)や[木琴風の楽器](#)があります。また、塩ビ管を使用した[手作りスピーカー](#)もあります。興味のある方は是非ご覧下さい。

最後になりましたが、今回ご紹介した弘前管工事業協同組合は、全国でも早くから（平成12年）塩化ビニル管・継手協会の塩ビ管リサイクルシステムを活用して、塩ビ管のリサイクルを実施しておられ、平成21年5月には同協会から感謝状を贈られています。詳しくはPVCニュース[No67\(平成20年12月号\)](#)、[No69\(平成21年6月号\)](#)でご覧下さい。

（了）

随想

ルワンダ旅行記（6） - 画一化 - （終）

（社）日本化学工業協会 若林 康夫

今年も旅行記をお読みいただき誠にありがとうございました。
今回は2カ国ということでちょっと駆け足の旅行となりました。

「ウガンダ」「ルワンダ」だけではありませんが、携帯電話の普及は目覚ましいものがあります。アフリカでさえ、携帯電話なしでは生活ができなくなっています。日本と同様、若者は暇さえあれば携帯電話を覗き込みメールのやり取りをしています。バスの中でもはっきりなしに誰かの携帯電話の着信音が聞こえます。

インターネットの普及もものすごいものがあり、日本と比較すると速度や接続に対する安定性に問題はあるものの繋がらないということはありません。

特に「ルワンダ」では無線でのインターネット接続を提供しているカフェ（スターバックスのようなもの）が多く、多くのお客様がラップトップパソコン（ノートパソコン）を持参し、コーヒーを飲みながらインターネットのサイトを見たり、メールのやり取りをしたりしていました。

「ルワンダ」では全ての町や村にインターネット回線の敷設が完了しているそうです。

子どもの写真を撮っても、「写真は電子メールで送ってね」と言われる時代なんですね。

「ウガンダ」と「ルワンダ」に共通していたのは、既に電球（白熱電球）の販売が終了していたことです。日本で



ルワンダで見かけた
インターネット回線の広告。
（日本よりはるかに速い？）

も経済産業省が省エネと地球温暖化防止のため 2012 年末までに生産・販売を自主的に終了するよう各メーカーに要請していますが、両国では既に販売が終了し入手することはできません。

電力会社の方の話では、国内の送電設備が整っておらず、各家庭での電力消費に追いついていないため、これからの家電製品には徹底した省エネ製品が求められているということでした。地方では各家庭に電気が行き渡っていない地域も残っており、いまのうちから省エネを進め、送電設備に対する設備負担を少なくしたいということのようです。

また、両国とも全土の標高が高いこともあり、エアコンはほとんど普及していません。というより、必要がないと言うべきなのかもしれません。

停電が多いことも確かですが、各家庭の電力消費量に関しては日本よりはるかに低いはずです。

「ウガンダ」と「ルワンダ」、お隣同士の国で名前もよく似ていますが、国民同士はあまり仲好くないようです。

「ウガンダ」でこれから「ルワンダ」に行くと言ったら、ほとんどの人から「何が起こるか分からないから止めなさい」とか「ちゃんとした飲み水がないそうだから、ウガンダでミネラルウォーターを買って持って行くんですよ」などとアドバイスを受けました。このアドバイスを真に受け、荷物の中にミネラルウォーターのボトルを入れて持ってきたのですが、「ルワンダ」でも普通に売っていました。。

「ルワンダ」で「ウガンダ」から来たと言うと、ほぼ全員が「ウガンダでは病気にならなかった？」と聞いてきます。個人的には、どちらの国も衛生状態に変わりはないと思うのですが。。

衛生状態ということでは「ウガンダ」「ルワンダ」ともアフリカの中では非常に良好だと言えます。もちろん、アフリカの中での比較であり、日本と同じというわけではありません。

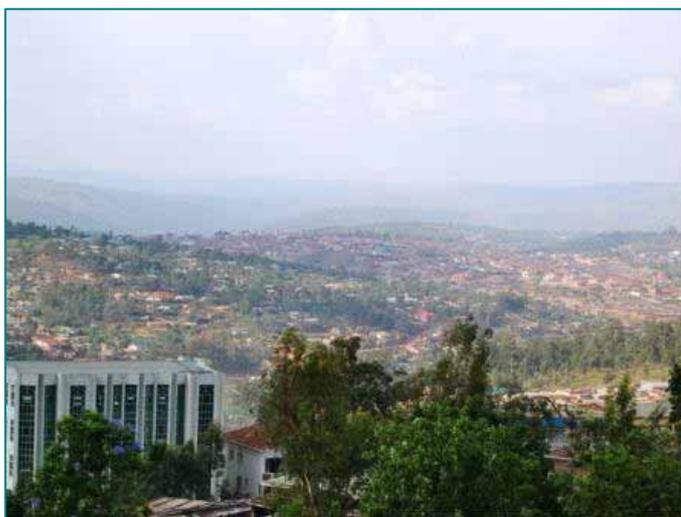
国内交通機関も発達しており、昔のアフリカ・アドベンチャーのイメージは全くありません。アドベンチャー旅行をしたいと言うと、国立公園のアドベンチャーツアーにご参加くださいと言われるのがオチです。

この地域で有名なマウンテンゴリラやチンパンジーは既に保護区に生息しているだけで、普段の生活では見ることはなく、田舎に住んでいる人でも実際に見たことがある人はごくわずかです。

年々、いい意味でも、悪い意味でも、世界が画一化されていっているような気がしてなりません。

長い文章にお付き合いをいただき、誠にありがとうございました。(了)

前回：[ルワンダ旅行記\(5\) - 丘を越えて -](#)



いくつもの丘がつながる
ルワンダの首都キガリからの遠景

編集後記

立春となりここ数日はようやく寒さも緩んできました。

今冬は典型的な冬型の天気となり、日本海側では大雪が降り、太平洋側では空っ風が吹き異常乾燥が続きました。東京地方では雨がほとんどなく、冬になるといつも見られた霜柱が今年は見当たりません。



また、空気の乾燥からかインフルエンザが流行しているようです。まもなく花粉が大量に散るとの予報が出ていることもあり、マスクをして防衛を図っています。

鳥インフルエンザ、霧島の噴火、日本国債の格付け引き下げなど暗い話題の続く中、日本がサッカーアジアカップで激戦を経て優勝しました。良い話題で世の中が明るくなってほしいものです。(可)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
